2022年4月吉日

BIPROGY 研究会
北海道支部　会員各位

BIPROGY 研究会
研究活動　運営委員会

2022年度　研究活動　参加者募集のご案内

拝啓　日頃よりBIPROGY研究会活動にご協力、ご支援をいただき厚くお礼申し上げます。

BIPROGY 研究会では会員の皆様が日常業務の中で抱えている課題等を研究テーマとし、テーマに関する知見を取得するのみに留まらず課題を克服すべく仮説を立て検証し、研究活動成果を報告書として取り纏め発表していただく、一連の会員同士や BIPROGY グループ社員との情報・意見交換の場、また、相互研鑽の場として、各種の研究活動を推進しています。

新しい日常（ニューノーマル）におけるビジネスヒントの発掘や企業の枠を超えた人材育成、新しい交流の場という目的としてご活用ください。このような状況だからこそできる活動を通じて自社へ活動成果を持ち帰っていただけるよう、研究グループ毎に BIPROGY グループ社員によるアドバイザーや運営メンバー、事務局も支援させていただきます。

今年度の活動は昨年度と同様に、新型コロナウィルスによる影響を考慮し、Web 会議を主体とした非接触型の活動を中心としつつ、状況を見ながら可能な範囲で対面での活動も取り入れることを検討できればと考えております。Web 会議ならではの移動時間削減、テレワークによる参加のしやすさなどプラス面を積極的に活用し工夫しながらご自身の成長へつなげていただきたいと思います。

多数のご参加をお待ち申し上げております。

敬具

1．2022 年度研究活動の目的：

・異業種交流（社外の年齢や経験、役職の枠を超えたメンバーとの交流）
・人材育成（課題解決，チームビルディング，ファシリテーション，プロジェクトマネジメント，ドキュメンテーション，ファシリテーション，コミュニケーション能力の向上）
・業務外分野探求への挑戦（失敗を恐れずチャレンジできるプロジェクト）
・働き方改革による新しい活動形態への挑戦
・活動成果の社外への発信（発表会や Web 掲載を通して参加者・参加会社の知名度アップ）

2．研究テーマ：

テーマは研究メンバーでお話し合いのうえ決定いただきます。

テーマ案は、添付の「2022年度研究活動　活動テーマ案」をご参照ください。

3．参加資格　：

BIPROGY 研究会会員企業（企業の方であればどなたでも参加いただけます。）

主体的に取り組む意欲のある方を募集いたします。

4．参加費用　：

① 本年度研究活動費として1企業あたり、￥20,000 を申し受けます。

＊ 参加人数に係わらず、1企業あたり、￥20,000

＊ 参加メンバー確定後、参加費用をご請求させていただきます。

② 活動のための移動交通費、宿泊などの経費は参加者の負担とさせていただきます。

5．申し込み方法：

5月20日（金）までに下記申込サイトよりお申込みください。

https://form.biprogy.com/public/seminar/view/18992

6．研究活動の運営について：

① グループ活動は1チーム5～7程度とさせていただきますが、お申し込み状況によって判断させていただきます。

② 主体はご参加いただく皆様です。

基本的にはグループに参加された方の自主活動です。

また、BIPROGY グループもアドバイザーとして皆様の活動を支援いたします。

7．活動期間と会合回数：

① 本年5月より2月末まで（発表会を除く）グループにより差がありますが、グループ単位にて調整いただく会合として月2回程度の会合を見込みます。

業務に支障をきたす活動は本来の活動の形ではありませんので、ご検討いただきお申し込みを頂きます様お願い致します。

② 発足式は、5月25日（水） 15：00～17：30 を予定しております。

③ 来年1月下旬に活動成果を「研究活動報告書」として提出していただきます。

＊研究活動運営委員の皆様により、活動報告書の表現力・構成力はもとより、実用性・有効性、先進性・独創性・独自性などの面を考慮して査読審査をさせていただきます。

④ 来年3月3日（金）に「研究活動成果発表会」としてグループメンバー以外の方々に向けて発表をしていただきます。

また、各グループリーダー、サブリーダーを対象に 8 月下旬から 9 月上旬にグループの中間報告をしていただく予定です。

8. お問い合わせ先：

BIPROGY 研究会 北海道支部事務局 温山（あたやま）
〒060-0808 札幌市北区北8条西3丁目32 BIPROGY（株）北海道支店内
TEL：011-558-1111（平日 9:00～17:30） FAX：011-737-1161
e-mail：biprogy-ken-hokkaido@biprogy.com

9. その他：

ご報告いただいた研究活動成果（研究活動報告書、プレゼン資料その他資料を含みます。）の著作権は著作者に帰属するものとします。但し、著作者は、BIPROGY 研究会が情報発信する機関誌や Web サイトにおいて、著作者の研究活動成果の掲載・配布に関する権利（個人名・会社名・所属先の公開を含みます。）を BIPROGY 研究会に無償で許諾するものとします。

以上

＜添 付＞

2022年度研究活動 活動テーマ案

No	キーワード	テーマタイトル（案）	活動内容（案）
1	D2C	今後のD2C領域の展望	米国ではB2CビジネスからD2Cビジネスへ広がりを見せている。日本ではまだあまりなじみがない言葉であるが、今後ITやデジタル活用によりD2C形態でのビジネスが広がる可能性がある。そのリサーチと社会実験ができるとよい。
2	IoB	IoB（IoTからの進化）	トレンドワードとしても挙がっているIoB（Internet of Behavior/Bodies）について、その前身とも言われているIoT（Internet of Things）からの進化過程も含め、今後の展開・メリット/デメリット等について検討する。
3	NFT	NFTを活用したビジネス開発	一時期ブロックチェーン技術が仮想通貨の台頭と合わせて表舞台に出てきたが、実際の所ビジネスで継続して活用されている事例は少ないようだ。しかしながら、ここに来てNFTの技術を活用したデジタルアートやクリエイター商品の販売やオークション等が脚光を浴びている。そのNFTとは何者かを研究し、ビジネスへの活用を探る。
4	エドテック（学習関連の技術）	エドテックを取り入れた 「未来の教室」	エドテック（EdTech）は、教育（Education）とテクノロジー（Technology）を組み合わせた造語。金融業界のFinTechや食品業界のFood Techなどのように、「○○に関する新技術」という意味合いで「○○Tech」という表現が用いられるが、エドテックもその一つといえる。教育・学習領域では、学習アプリやオンライン学習の配信サービスなどのほか教師や教員が生徒の学習を管理するためのツールも導入されいる。教育・学習領域でテクノロジーを活用することで、教育現場の効率化や教育格差の解消などが期待されている。
5	グラフデータベース	グラフデータベースを活用した 関係性の見える化	データのつながりを表現できる、ネットワークやグラフ構造を扱った「グラフデータベース」が注目されている。例えばFacebookやLinkedInなどのソーシャルメディアが、ユーザー同士の関係性を表すソーシャルグラフを格納するために使っている例がよく知られている。グラフデータベースを活用してビジネスに役立てるためには？グラフデータベースはどのような用途に向いているのか？を研究する。
6	ゼロトラスト	クラウドおよびリモートワークの 進展とそれに伴うセキュリティ対策	コロナ渦におけるリモートワークの進展に伴い、パブリッククラウドの利用が進んでいる。クラウドでは、デバイス認証およびログによる監視でセキュリティ対策をしているケースが出てきているが、従来型の閉域接続によるセキュリティとの併用による不都合が生じてきている可能性がある。ユーザー企業としては、本質的にセキュリティのどこに不安をもっているのかを議論したい。
7	ローコード開発、ノーコード開発	「開発しない」開発手法	ローコード開発、ノーコード開発が世に出て久しく、プラットフォームもだいぶ出そろってきている。しかし、プログラム開発技術を持たない情シス部門へ広く浸透しているかと言えば、そうでもないと感じる。「開発しない」この手法が最も適した業種、強味、弱みを分析する。
8	ヘルスケアプラットフォーム	クラウド時代のヘルスケア	医療情報のIT化や、共有化が広く議論されている。コロナにより医療機関に出向くことが出来なくなことも背景にヘルスケア分野のIT化やプラットフォームを提供するサービスが提供され出している。 さらに、データ分析により個々人に合わせたヘルスケアも可能となっている。 今後さらなる広がりを見せるヘルスケア分野のIT化の方向性を深堀りする。
9	DX人材育成	DXを担う人材像と育成手段	DXが叫ばれて数年が経過しているが、真にDXを担える人材像とは？　具体的にはどんなマインドやスキルセット、経験を経て活躍できる人材になるのかを、実モデルを通じて研究し、その育成手段やキャリアパスを提言する。
10	ダイバーシティ＆インクルージョン	D&Iがあたりまえの時代	個人の信念や価値観、ライフスタイルなど、一人ひとりの違いを認め合い、多様性を受け入れる。 企業・組織・チームが自律的に成長していくために求められる「ダイバーシティ＆インクルージョン（D&I）」とは。 ポストコロナ時代を見据えた「強みや個性を活かした多様性ある組織のあり方」について研究する。

※具体的な、テーマタイトルならびに活動内容につきましては、グループ形成されたメンバーの皆様でご検討いただきます。